

## ▶ 「S-KYT研修を実施して」 ◀

### 小田原消防署消防課

#### 1. はじめに

小田原市は、神奈川県ほぼ南西に位置し、東海道五十三次の宿場町であったことから古くから交通の要所で、現在でもJR東海道線、東海道新幹線、小田急線、大雄山線、箱根登山線と多くの鉄道が集中しており、首都圏へのアクセスも良好な場所といえます。ちなみに、東海道新幹線は開業前に小田原市に実験線があったことから「新幹線発祥の地」と言われています。

また、街のシンボルでもある小田原城天守閣は、戦国時代において上杉謙信や武田信玄などに攻められた際にも耐えたといわれる難攻不落の城で、その後に豊臣秀吉により開城されるまで関東の中心拠点とされていました。

市の地形は東西に長い114平方キロメートルの面積で、気候は温暖なためみかんなども栽培され、市の花でもある梅は観賞、また食用としても重宝されており、さらに相模湾に面していることから蒲鉾やひものなど海の幸にも恵まれています。

このように、歴史的に育まれた文化と恵まれた自然の中に約19万の人々が暮らす街であります。

#### 2. 小田原市消防団の概要

当市消防団は、昭和23年3月の消防組織法の制定と共に発足し、町村合併を繰り返したのち、昭和46年4月に22分団の組織になり、その体制を維持したまま平成26年4月には新に女性分団を発足しました。

団の組織は、消防団長を筆頭に副団長が3名、分団長及び部長がそれぞれ23名、班長が59名、団員が620名の総勢752名（平成26年4月1日現在）で、市民の安全安心を守っています。

団の活動は、消火活動、春と秋の火災予防運

動や歳末火災特別警戒といった火災予防啓発活動、市の花火大会や各分団受け持ち区域の伝統的な行事、お祭りなどの警備を実施しています。

また、市の中央を流れる酒匂川をはじめとする重要水防河川が点在するため水防団も兼務しています。

#### 3. S-KYT研修開催の経緯

当市では交通事故の防止として毎年、運転者講習会を実施しており、最近では幸いに大きな事故はありません。

また、活動中の公務災害は、ここ数年、水防演習時に発生しているものの、その他の事例はありません。

しかし、各種活動訓練時に気分が悪くなるなど公務災害にまでは至らないケースがあることや、団員の平均勤続年数が約9年で災害出勤も減少傾向にあり、現場の危険を知らない団員が多くいること、さらに、近年の東日本大震災や火山災害など当市で経験したことのない自然災害の発生が懸念されていることから、消防団危険予知訓練(S-KYT)研修を消防基金ご協力のもと十数年ぶりに開催することとしました。

#### 4. 研修の様子

平成27年6月7日(日)小田原市消防本部の





講堂において、午前9時からS-KYT研修(3時間コース)を開催しました。

参加したのは、各分団の主に部長以上の三役で総勢69名、11班編成で実施しました。

普段実施している実働訓練とは違う訓練ということで、参加する団員も緊張気味の中で研修が始まりましたが、冒頭の自己紹介で指導員の工夫もあり、徐々に打ち解けた雰囲気となりました。

実技で、指導員が座っている椅子から立ち上がり椅子を机に戻す際に「よし」と指差し呼称をしている姿を見た団員は当初戸惑っていましたが、その趣旨を理解し、幾度となく起立する際には忘れずに行うようになりました。

危険要因の捉え方と表現の仕方の講義では、「現場付近でのホースの搬送と延長」を中心に危険な要因や現象を個々で洗い出し、実行可能な



対策について各班でまとめ、最後に発表と指差し唱和を行いました。

この講習により、火災現場にはいろいろな危険が潜んでいることを再認識できたことは、安全管理に大きな効果が期待でき、何よりタッチアンドコールという班員が円陣を組んで指差し唱和を実施することにより一体感が生まれたことは、消防団全体の団結に大きく寄与するものと感じます。



## 5. おわりに

前述のとおり、当市は相模湾に面し、地震や火山災害などの発生も懸念されるため、団の装備を順次国の新たな基準に従い導入を計画しているところですが、それは団員の命あってのものであり、とくに団員はそれぞれが他に本業を持っていることから公務災害はあってはならないものです。

このことから、この研修や他の講習も含めて定期的に導入を検討し公務災害ゼロを目指していきたいと考えております。

最後に今回の研修実施にあたり消防団員等公務災害補償等共済基金企画課の皆様をはじめ、講師を務めていただきました指導員の方々のご協力に心より感謝申し上げます。